

IV 学校教育研究

1 研究主題

豊かな心で、伝え合い認め合い高め合う生徒の育成
～生徒一人一人の深い学びの実現のために～

2 主題設定の理由

(1) めざす生徒像

邑知中のめざす生徒像

つ く す	「何か・誰か」のために頑張る生徒
つたえる	親身になって伝え合う生徒
つながる	仲間と力を合わせて活動する生徒

本校の教育目標は、校訓「らしくあれ」を基に、学校・家庭・地域が協働する中、三あい(学びあい、鍛えあい、育ちあい)により、人間性豊かな、強くたくましい生徒の育成に向けて以下のように目指す生徒像のゴールイメージを設定している。

目指す生徒像のゴールイメージ

自ら未来を切り拓き、社会で活躍するための素地となる「考動力(状況を見つめ、ゴールに向かって、考え、よりよく判断し動き出す力)」の育成に努める。

- 「何か・誰か」のために頑張る生徒の姿
 - ・ 単元ゴールや本時のねらいに向けて試行錯誤を繰り返しながら取り組む生徒
 - ・ 他者との関わりの中で協働的に自らの変容に気付ける生徒
- 親身になって伝え合う生徒の姿
 - ・ 自分の考えを持ち、相手意識をもって伝える生徒
 - ・ 自分の考えと他の考えを比べながら、聞いたり話したりできる生徒
- 仲間と力を合わせて活動する生徒の姿
 - ・ 他者を大切にしようとする思いやりにあふれる生徒
 - ・ 自他ともに向上心にあふれる生徒

(2) 生徒の実態

授業に前向きに取り組み、学び合い学習においても他と関わりながら意欲的に学習をしようとする姿がある。その反面、自発的、計画的に学習に取り組む機会が不足しており、自ら学習を調整する力の定着に課題が見られる。また、基礎基本が定着できていないために、積極的に学習に参加できない生徒も見られる。生徒会活動や部活動においては、上級生が自己の集団をより良くしようと積極的に活動する姿があり、下級生の良き手本となっている。このことが学校の温かい雰囲気につながっている。

3 生徒に身につけさせたい資質・能力

(1) 他の考えを受け止め、自らの考えを深める力

→ 自分の考えと比較したり、関連付けを行ったりしながら聴くことで、新たな考えをもつことができたり、自分の考えを確かなものにすることができたりする。

(2) 主体的に学びを深め、自分の考えを論理的に表現する力

→ 自ら課題を設定し、その課題を解決する方法を考え、他者に対して根拠を明確に、順序立てて自分の考えを発言できる。

4 研究仮説

(1) 生徒自ら学ぶ時間（考動タイム）の振り返りと評価を繰り返すことで、主体的に学習に参加しつつ、自己調整力を向上させることができると考える。また、自分で学び取った考え方や学び方を振り返ることで生徒の学びが可視化され、自らの考えを深めることができるだろう。振り返りや評価を生徒同士で共有することで、考えや方法の多様性を受け止め、広めることができるだろう。

(2) 「やればできる」基礎学力向上の取組を行うことで、自分の中にある教科の知識・技能が身に付き、論理的に表現しようとするときに、根拠を明確に自分の考えを表現できるようになるだろう。

5 取組の重点

(1) 「委ねる授業」と「振り返り」の効果的活用

昨年度は、主体的に学ぶ時間として、授業の後半20分程度を「考動タイム」として生徒に活動を委ねる時間を設定した。その結果、生徒は自身で考え、活動を決定し、自ら学習を進める感覚が身についてきた。しかし、考動タイムが「課題に迫る」ものとしてもっと効果的な（さらに言うと不可欠な）時間になっていたのか、教員も生徒もさらに考動タイムの質を向上させる必要がある。

今年度は、生徒自身が自分の考動タイムについて振り返り／評価をさせる取組を行いたい。考動タイム後の5分間（仮）を使って、生徒が考動タイムで「何を行ったのか」「行動タイムの評価※複数項目」を生徒が振り返る。その際、ICTを活用して、考動タイムの評価を蓄積することで、主体的に学ぶ方法が身についていく自身の変容を実感できるようにする。教員も生徒の評価を受けて、授業改善に取り組む。

(2) 「やればできる」基礎学力の向上

課題や帯タイムを活用して、基礎学力向上の徹底していく。

(3) ICTの効果的活用

HAKUISM DiVE や県教委のGIGA 動画等を参考にしたり、ICTの活用実践例を校内で共有したりしながら、深い学びの実現のための効果的なICTの活用方法を探る。

6 具体的な取組

(1) 月に1回の頻度で自己評価／振り返りを伴う「考動タイム」を設定した授業実践。

(2) (1)を活かした授業改善のための校内研修

(3) 課題や帯タイムの活用

(3) ICTの効果的活用

7 学校教育研究全体構想図

